

# 幼児期の子供たちに育みたい11のこと

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿【10】

平成30年度から実施されている「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に記載されているとおり、小学校入学時までには次の10の項目について育てていくことが求められています。

- ・ 自立心
- ・ 協同性
- ・ 道徳性・規範意識の芽生え
- ・ 社会生活との関わり
- ・ 思考力の芽生え
- ・ 自然との関わり・生命尊重
- ・ 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- ・ 言葉による伝え合い
- ・ 豊かな完成と表現

【遊んで身に付く36の基本的な動き】

国立青少年教育振興機構では、幼児が友達と楽しく体を動かして遊ぶことは、運動能力の向上だけでなく、意欲や気力、対人関係、社会性や認知的能力を育むきっかけとなるとの考えから、「遊んで身に付く36の基本的な動き」を整理し、遊びの中で自然にこれらの動きが獲得できるような運動プログラムの開発を進めています。

また、幼児の発達段階に合わせて、幼児自身が遊び方を選ぶとともに、自然の中で自由な発想で遊ぶことができるように留意した環境づくりを進めています。

体を移動する動き			体のバランスをとる動き		

物を操作する動き					

## 【大雪「森のおそび場」の特徴】

国立大雪青少年交流の家では、これから「幼児期の子供たちに育みたい11のこと」を具現化するために、次のようなポイントを重視し、本プログラム及び室内プログラム（別冊）を開発しました。

### プログラムのポイント

- ①自然環境を活かした遊び場づくり  
森での遊びに失敗はない。再挑戦できる。
- ②安全・安心な環境づくり  
幼児の発達段階に応じて、安全に挑戦できる場づくり
- ③様々な遊びができる場づくり  
個々の興味に応じた多様な遊びができる。  
友達と… 様々な動きの獲得… 挑戦心…

### 大雪「森のおそび場」プログラム

これらのポイントをふまえて、次の8つのプログラムを整備しています。

①丸太とび	②ロープ渡り
③ロープのぼり	④ターザンロープ
⑤スパイダーネット	⑥ハイジブランコ
⑦ストライダー	⑧ツリーハウス



今後、子供の成長や季節に応じた、おそび場の整備を進め、子供たちの「遊びたい」を満足させつつ、発達段階に合わせた育みたい力を育てていける環境づくりを進めていきます。



次のページは「森のおそび場」マップです